



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

モーセに率いられ、エジプトからの脱出をはかったイスラエルの民は、目の前に広がる葦の海と、後ろから迫り来るエジプト軍との間にあって、絶体絶命の危機を迎える。ところが、目の前の海が真つ二つに裂かれ、彼らは乾いた海の底を渡り切る。そしてエジプトの軍隊は波にもまれ、壊滅する。映画「十戒」の中でも描かれる、この有名なシーンを覚えておられる方も多いことだろう。もう30年以上前のことだが、ロスアンゼルスユニバーサルスタジオのツアーで、「葦の海」のセットを見に行つたことがあったが、あの大スペクタクルとはあまりにも程遠い仕掛けに、言葉も失ってしまった。本当は何が起こつたのか、よく言われるように、潮の干満によつて陸地が現れただけの自然現象だったのか、また比喩として大袈裟に語られた壮大な創作物語であつたのか、今となつては知る由もない。しかし、この出来事が、イスラエル民族にとつてだけでなく、今キリストを救い主として仰ぐ、私たちにとつても、特

瞑想

モーセは言った。恐れてはならない。しっかりと立て、今日あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。

別な信仰の証しとなつていくことだけは事実なのだ。聖書はことあるごとに、この奇跡を物語る。ヨシユアは、ヨルダン川を渡り、約束の地へと侵入したときに、「それはちよとど、我々が葦の海を渡りきるまで、あなたたちの神、主が我々のために海の水を涸らしてくださつたのと同じである」(ヨシユ4:23)と言ひ、
にあり、皆、海を通り抜けた」(Iコリ10:1)と民族の歴史を振り返つた。詩篇も、預言者たちも皆、この奇跡の出来事を、ことあるごとに語る。それは、遠い昔の話ではなく、今まさに目の前の困難から救い出してくださる神への信仰に他ならない。
モーセは、あの日イスラエルの民に向かつて、「恐

主幹牧師 榎本 恵

出14:13 (協)

れてはならない。しっかりと立て、今日あなたがたのために行われる主の救いを見なさい」(出14:13)と答えた。この「しっかりと立て」という言葉を、新共同訳聖書では「落ち着いて」と訳している。「立つこと」それは、身体的なことのみを指すのではない。絶体絶命の状況で、モーセに対し「自分たちを荒野で死なせるためにここへ連れて来たのか」と憤り、叫ぶ民に、そこでこそ、落ち着き、立つことを求めたのだ。それは今、この混迷する現代を生きる私たちにとつても、まさに必要な事なのだ。
「常に腰骨をシヤンと立てること―これ人間の根性の入る秘伝なり。(中略)『腰骨を立てる』ことは、エネルギーの不尽の源泉を蓄えることである」実践家であり、研究者であつた森信三氏先生の言葉である。師は、座るときに、腰骨を立てるといふ独特の教育を提唱した稀有の学者であつた。それはただ姿勢をよくするといふことにとどまらず、人間の胆力を高める教えであつた。これこそがモーセの語る「しっかりと立つ」と共通するものがあるのだと、私は思つている。
友よ、目の前のエジプト兵はとてつもなく大きく強くみえるだろう。腰が引け、座り込み、嘆き悲しむ私たち。しかし、そんな時こそ、腰骨を立て、落ち着こう。私たちは、私たちのために行われる主の救いを見るのだから。



神戸聖愛教会にて。亀井姉、猪瀬姉、他多くの天上の友の祈りと共に、
阪神のアシュラム、続いていきますように。

第26回 阪神一日アシュラム

榮より 巻頭言

榎本 恵

主題聖句

あなた方の抱いて
いる希望について
説明を求めめる人
には、いつでも弁
明できるよう備え
ていなさい。
I ペトロ 3:15

イエスは主な
り。

第26回阪神一日
アシュラムへ、よ
うこそおいでくだ
さいました。

アシュラムは、
ただひたすら主の
前に静まり、その
御声に聴く集会で
す。これは、今の
時代にとって、大
変重要なものであ
ると自負するもの
です。喧騒を離
れ、静かに、主と
の交わりの時を持

ちたいと願う者にとつ
ては、大変有意義で、
大切な時であります。
しかし、アシュラム運
動とは、この世を離
れ、ひととき「静かに
する」ことが目的では
ないのです。

初代主幹榎本保郎牧
師は、こう述べていま
す。「もし『静』がた
だ『静のための静』に
終わるのであれば、そ
れは福音信仰にもとる
ものであります。むしろ
『静』が『動のため
の静』となると、
に、『静』の本来の存
在意義があるのです」
(榎本保郎著『アシュ
ラムの手びき』より)

私たちの住む現実の世
界は、大変厳しいもの
があるでしょう。戦争
と戦争の噂は広がり、
地震や洪水など自然災
害は、突如として私た
ちを襲います。また為
政者たちはどうしよう
もなく腐敗し、経済は
低迷し、社会は乱れ

る。私たちは、そのよ
うな現実を前にし、途
方に暮れ、どこか逃げ
る場所はないかと右往
左往するのです。きつ
と、みなさんも、そん
なかなかな期待を持っ
てここへお集まりのこ
とではないでしょう
か。しかし、アシュラ
ムとは、決してそんな
都合の良い避難場所で
はないのです。これ
は、『動のための静』
の場所なのです。

私たちは、どんな時
であつても、またどん
な場所であつても「希
望」を弁明しなければ
なりません。この時代

の中で「不法がはびこ
るので、多くの人の愛
が冷える。しかし最後
まで耐え忍ぶ者は救わ
れる」(マタイ24:13)
と言われた主の与えら
れた「希望」の言葉を
生きるものとならなけ
ればならないのです。
どうか、今回のアシュ
ラムが、みなさまがた
にとって、「抱いてい
る希望について、いつ
でも弁明できる」備え
の時となりますよう
に。

共に祈り、御言葉に
聴いて参りましょう。
(アシュラムセンター

主幹牧師)

阪神一日アシュラム 感謝状より

榎本 恵

イエスは主なり。
ひととき、静かに聖
書に向かい祈る時、私
たちは、世界が神の大
きな御手のうちにある

ことを知ります。私た
ちの妨げも、不安も、
恐れも、それらはどう
しようもない現実では
なく、あらゆる災や困
難の飛び出た後のたっ

ご案内

毎月第一金曜日に「阪神ミニアシュラム」を、神戸聖愛教会をお借りし行なっております。どうぞご参加ください。(やむをえず休会になる時もございます。ホームページ、アシュラム誌などで日程をご確認ください)

これからの阪神ミニアシュラム予定

【日時】 6/7・7/5・9/6 (金)
pm1:00～3:00

【場所】 日本基督教団神戸聖愛教会

第46回 阪神アシュラム

【日時】 11/21 (木)～23 (土)

近江八幡アシュラムセンター、シメオン黙想の家、アンナ祈りの家を会場に開かれます。覚えてお祈りください。

た一つのエルピス、希望であることに気づくのです。「不当な苦しみを受けることになっても、神がそうお望みだとわきまえて、苦痛に耐えるなら、それは御心に適うことなのです」(Iペトロ2:19)。あのローマ帝国の迫害に耐え抜いたペテロの名を記す手紙は、大胆にこう告げるのです。そして、この時から、300年の時を経て、あのペトロの逆さ十字架の刑場跡が、ローマ・カトリックの総本山「サ

ン・ピエトロ大聖堂」となったのです。私たちの信仰は、まさにここにあるのです。どうか、この世が、どんなに辛く厳しいものであったとしても、生き生きとした希望を失うことなく、信仰生活を続けて参りましょう。祈っております。そしてまた次、お会いする時、皆様の希望についての弁明の言葉をお聞かせください。ご参加ありがとうございます。 (アシュラムセンター 主幹牧師)

修道場アシュラム

感謝のお便りより

坂根 智洋・彩音
大変お世話になりました。

どっぴりと福音に浸かり、恵みのシャワーまで浴びた3日間でありました。

私たちの教会では、毎年、年頭アシュラムを行っていますが、どうしてこの近江八幡にあるアシュラムセンターでの参加に夫婦で強い思いが与えられたのかわかりました。ヴォーリズさんの信仰を通して、神様のご栄光を見るためであったことを感じました。また、恵先生をはじめ、アシュラムセンターの皆様の主にある献身的なおもてなしと愛に触れることができ、感謝でした。

いただいた御言葉を握りしめ、祈られてい

修道場アシュラムに参加して (感謝のメールより)

近藤 絹絵

(当日の朝) ワクワクして、いつもより早起きしてしまいました。2泊3日たいへんお世話になりました。最後の満ちの時には、恵先生から送り出されている気持ちになり感動しました。

神様が私に何を望んでおられるのか?それはいきいきとした喜びに満ちた信仰生活を送ることだとわかりました。



4月修道場アシュラムにて。参加者前列右から、坂根智洋兄、近藤絹絵姉、坂根彩音姉。写真は、坂根兄による自撮り。

これからもZoomで聖書の学び、祈祷会に参加します。アシュラムファミリーの一人として、よろしく願いたいします。

アシュラムに参加してよかった～! 神様ありがとうございます。(和合キリスト教会) 今や、早天祈祷会の友に。

ることを覚えつつ、一歩一歩進んで行きたいと思えます。アシュラムセンターの尊い働きが、これからも豊かに祝福され

ますよう心からお祈りしております。『しかし、主の言葉は永遠にかわることはない』(これこそ、あなたがたに福音として告げ知らされた言葉なのです。)(Iペテロ1:25) (ふじみキリスト 教会)

主幹牧師の2023年度の振り返りと2024年ビジョン(4)

2024年度のビジョン

その後、わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る。ヨエル3：1

3) 沖縄サマリア人病院での働き

今年から始まる、新しいアシュラムセンターの働きを紹介しましょう。

一つ目は、今まで、主幹牧師の個人的働きとして続けていました沖縄の「サマリア人病院」での働きを、今年から、正式に病院とアシュラムセンターの委託事業として受けることになりました。

アシュラム運動は、祈りの運動であり、センターはその普及を目的としています。そして、その運動の実際的な働きは、それぞれの教会やまた現場を通して行われるものです。今回、病院をその活動の場所として、そこにいる患者さんや医療従事者、またその他諸々の関係者に、奉仕していく場所が与えられたことは、アシュラム運動にとって新たな展開となるでしょう。特に認知症で、内臓疾患を伴う療養者への働きは、ターミナルケア、またスピリチュアルケアという領域での働きであり、祈りの運動であるアシュラムの本領を発揮し、同時に新しいチャレンジとなり、祈りが実践となることを期待しています。どうか覚えお祈りください。また、6月に行われる「平和巡礼の旅」にぜひご参加ください。(毎年6月23日慰霊の日前後)

4) 地域アシュラムとの関係、および修道場アシュラムについて

次に、今年より、三重アシュラムが、センター主催のアシュラムに加わります。小林佳子姉の篤き祈りにより続けられてきた「三重アシュラム」ですが、姉妹が天に召された後も、今回年頭アシュラムにも参加くださった岡部知幸子姉をはじめ、多くの皆様の祈りと支えのうちに続けられてきました。しかし、今後も継続していくために、センターの主催アシュラムとして引

き継いでもらえないかとの要請がありました。長きに亘り、三重のアシュラムの友を実行委員として行われてきた三重アシュラムに感謝すると共に、これからはセンターの主催アシュラムとして、その思いと志を大事にし、引き継いで参ります。

津ルーテル教会を会場とし、6月には新たにセンター主催アシュラムとして出発したいと願っております。地域アシュラムが、さまざまな事情によって継続が困難になっています。センターはできる限り、その継続を支援してまいります。

これで、センター主催のアシュラムは、1月の年頭、4月の阪神1日、7月の福岡1日、四国、そして9月のオリーブの里に、6月の三重アシュラムが加わります。

また今年11月に開催されます「第49回京浜アシュラム」に初めて、主幹牧師に主奉仕者の依頼が参りました。他にも、今年アシュラム集会を計画しておられる地域アシュラムの友がおられることと思います。それぞれは独自に行っておられるものであり、センターからの指示等は厳に慎まなければなりません。しかし、アシュラムの友からの要請があれば、祈りつつ共に歩むことは、私たちの使命です。来年はアシュラムセンター開設50年の節目の年です。どうか地域のアシュラムの友の皆様、どんなことでもご相談ください。

(続く)



2018年三重アシュラム。今も毎月のミニアシュラムは続けられ。小林ご夫妻も天上から。阪神の猪瀬姉、藪内姉もこの時ご参加されてますね。(写真中央辺り)

私も高志姉も心は燃えても、体がついていかない状況でしたが、センター主催として下さる事、感謝です。年頭アシュラムにて各地アシュラムでの「雄々しく強く生きなさい。」

小林佳子姉の後を継ぎ、高志洋美姉と共に津教会で一日アシュラムを二年させて頂きました。前任の三ヶ島師は榎本保郎師の『ちいろば』によって導かれた方で、大賛成。後任の瀬戸師も一回目のアシュラムでファンとなり、今年も楽しみに。

いじま 雑記 12 長女念願の二段ベッドがやってきました



春、長女念願の二段ベッドがやってきました。六歳の誕生日からはしばらく経ちましたが、こういうことに関してはいつもの天然が嘘のようにしっかりしている長女。これと決めたらテコでも動きません。こちらも鼻息荒く、ふうふう言いながら、二段ベッドを組み立てました。もっとも本当に大変だったのはここからで、どちらが上段で寝るかをめぐって、長女と次女が大喧嘩。長女はまるで自分が上で寝ることは決まっているのだというような顔をしています。次女も譲りません。とりあえず今日は一緒に上で寝てみたらとか、上だと落ちちゃうかもしれないからとか、あらゆる甘言と脅しと約束を尽くして、ふたりを子供部屋においてきました。隣からは、さっきとは違って、ふたりのはしゃぎまわる声が聞こえてきます。明日は学校だと言うのに、寝る気配もなく。こちらは普段より静かな寝室で、天井を見つめています。

思えば、長女が生まれてからの六年間、寝かしつけの時間はいらしていることも多く、もしこの時間を自由に使えたら何をしようかと思ったことも何度もありました。しかし、こうしてふたりがいなくなってみると、とてもさびしいのです。もしかして、子どもたちが高校生や大学生になって家から出ていくときは、もっとさみしいのではなからうか、そんな未来を想像して感傷に耽っていると、どたどた走ってくるふたりの足音が。どうやらまだふたりだけでは寝られなかったようです。残されたのは空っぽの二段ベッド。さて、どうしたらいいでしょうか。

榎本 空 (ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住)

この度、第十回日本翻訳大賞を受賞しました。母を失うこと、大西洋奴隷航路をたどる旅』著：サイディヤ・ハートマン 訳：榎本空 晶文社



←3月加古川祈りの家(小林清子姉宅)アベル門宣教師も初参加!和のたずまいの中で心落ち着き、みこ



←早天祈祷会の後で。5月修道場アシュラムにご参加の皆様と。前列右佐々木春代姉、後列右から野澤和代姉、佐賀昭子姉、新千重子姉、加藤仁臣兄。



←修道場アシュラム夕食。久々モツ姉のタイ料理!辛さ控えめ大好評!



←齋藤篤師、台湾にて文蘭教会ナナン師に地震義援金(アシュラムヨセフ基金含む)を。

みもとに・・・

柴川 明子姉 (2024.4.25 召天 88歳)

札幌アシュラムの友。むくどりホーム(誰でもが集い遊び育ち合える場)設立者。るつこ姉の義母、康子の叔母、(康子は明子叔母によりアシュラムの存在を知る)写真は、第16回国際正義平和アシュラムin札幌、平和のコンサートにて。

左は夫、正義兄(2022.7.22召天)




↑土屋聡、めぐみご夫妻。オリーブの里アシュラム友、シメオン泊、オカリナも。

今年2024年も早いもので、残すところ後半年となった。元旦の「能登半島地震」に始まり、台湾花蓮の地震被害、またブラジルでも大変な水害が起こっている。それらの被災地の事を祈りつつも、自分たちの無力に嘆いてしまふ。しかし、私たちの祈りで、地球が救われるのではなく、私たちが祈りを向けている方こそが、その業を成し遂げられる。私たちに与えられていることは、祈り続ける事である。今年も、「沖縄平和巡礼の旅」が行われる。今回は10名に余る参加者が与えられた。感謝します。どうか、この繰り返しの中で、主の平和を見ることができ、祈り続けることができますように。

皆様の祈りを、どうかあわせてください。

(恵)

あとがき



中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり！

6月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】
0748-33-4030
アシュラムセンター

1(土)	加古川祈りの家 (小林清子姉宅 PM1:00)
3(月)	ZOOM聖書教室 (Zoom AM10:30、PM7:30)
7(金)	阪神ミアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)
8(土)	聖書と学び会 (Zoom PM8:00)
10(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
14(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
16(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝 (PM5:00)
17(月)	使徒書に学び会 (Zoom PM7:30) (午後のみ)
20(木)	沖縄聖書教室 (日基教団首里教会 PM6:30~7:30) 沖縄の皆様！お待ちしております!! 夕食会もご参加の方は、お知らせ下さい。
24(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
25(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
25(火)	しみじみする会 (桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30)
26(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
7/5(金)	阪神ミアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)

6月のアシュラムなど

15(土)	第29回 三重一日アシュラム (近畿福音津ルール教会) AM9:00~ 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
15(土)	第23回 新潟一日アシュラム (日基教団新潟教会) 奉仕者 大島庄吾師 (新潟愛泉伝道所)	0250-23-2697 吉澤昭男師
20(木) 23(日)	沖縄巡礼の旅 奉仕者 榎本 恵師・榎本 空兄	0748-33-4030 アシュラムセンター

7月のアシュラム予定

15(月)	第27回 福岡一日アシュラム (福岡中部教会) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
20(土)	第5回 四国一日アシュラム (三島真光教会 (四国中央市)) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
25(木) 27(土)	常任運営委員のための修道場アシュラム 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
27(土)	天上の友を憶える日礼拝 PM1:00~ 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

8月以降のアシュラム予定

8月11(日)午後~12(月・祝)	第2回 ユースのための修道場アシュラム
9月15(日)午後~16(月・祝)	第3回 ユースのための修道場アシュラム
9月12(木)~14(土)	修道場アシュラム
9月20(金)~21(土)	新潟アシュラム
9月26(木)~27(金)	日光オリーブの里アシュラム

みことば

日本キリスト教団取手教会
牧師 金子敏明



シメオン池にて

今日、貴方がこれ聞いたならば
ルカ 4：16~30

イエス様が故郷ナザレの会堂 (シナゴーク)で説教をされる有名な場面です。残念ながら説教の中で記されているのはその冒頭の「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にした時実現した」だけ。ギリシャ語の原典だと最初に「今日」がきます。つまりイエス様が(サタンとのやり取りは別として)人々に向けて最初に告げた言葉が「今日」なのです。聖書は常に現在進行形で「今日」私たちに語りかけられています。貧しき者たち、抑圧された人々のための変革が今日、ここに現されたのです。

「主の恵みの年」とはヨベルの年のこと。色々な貸し借りもすべてゼロになり、奴隷として売られた人も解放されます。貧しさのために土地を手放さざるを得なかった人の元に土地が返されます。イエス様はヨベルの年を語ることで、解放と救いを会衆に宣言されました。ただそれは「今日、あなたがたが耳にしたからこそ」実現するのです。ジョン・レノンの「Happy Xmas」の歌詞に「戦争は必ず終わる。あなたたちが心からそう望むならば」とあります。この御言葉を貴方たちが心から信じ、そのように祈り行動するならば、神の力により必ずそうなる。その解放は、実は今日始まっているのです。

しかし会堂の人々は感動しつつも「ヨセフの子じゃないか」と見下すのです。エリヤとエリシャの列王記のエピソードが引用されていますが、いずれの話も「神の恵みを受けて救われたのは、神の民であると自負しているイスラエルの民ではなく、救われるはずがないとされていた異邦人であった」というメッセージが込められています。選ばれし民であると信じてきたイスラエルにとっては腹の立つであろうメッセージです。極めて善良な会衆までもがこぞってイエス様を崖から突き落とそうとするのですから、凄まじい暴動です。でもその彼らのことを私たち現代の教会は笑えるでしょうか。貴方にはイエス様の「今日、この福音を聴いて平和を実現しよう」という呼びかけが聴こえているでしょうか。その呼びかけを聴いているのは、現代ではむしろ会堂の外を歩く人たちのかもしれない…そんな風に思えることもしばしばです。

早天祈禱会での祈り(ほんの一部) ルツの歩んだ道がダビデ、イエス様につながる事に身の引き締まる思いがしております。不確かな歩みですが、あなたが示して下さる事を信じて進んで行けますように。… 恵師63歳、感謝!



恵師63歳、感謝!
今日まで母を「泣かされて来た」とも泣かずに感謝しています
アシュラムのため努力しています